

東北教区報 2023年2月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>

新年メッセージ

「声をかける」

主教ヨハネ 吉田 雅人

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の影響は、ついに4年目に入ってしまった。それに加えて昨年の2月からはロシアのウクライナ侵攻という、90年前の世界にタイム・スリップしたのかと思わせるようなできごとが起こりました。それは今もなお多くの弱い立場にいる人々を、苦しみと悲しみの淵に追いやり続けています。

どうぞ皆様、新型コロナウイルスで療養しておられる方々、戦火にさらされて苦しんでおられるウクライナの方々のことを憶えて、お祈りくださいますようお願いいたします。

◆「男だろ!!」から

「信じてるぞ」◆

今年も箱根駅伝を見ておりました。昨年は青山学院大学監督の「スマイル、スマイル」



について書きましたが、今年は駒澤大学の大八木監督の掛け声が気になってしまいました。

彼が走っている選手に「男だろ!!」と檄を飛ばして話題になったことはご存じかと思えます。ところが今年は、今

までとは違う掛け声が多かったように思いました。

その掛け声とは、「お前ならできる!! 信じてるぞ」です。このように変わった理由を大八木氏は、あるインタビューで次のように述べていました。

「私の一方通行でした。厳しかったし、学生は私に何も言えなかったと思う。」以前

とは違い選手の意向を聞くようになり、そうすると積極的に声も掛けるようになります。「話し合ってやらなくちゃ。自分から話を聞こうと。自分も変わらないと」。

◆イエスさまの声かけ◆

イエス様は、既に二千年前から私たちに声をかけてくださっています。

「徴税人ザアカイ」の物語（ルカ19・1〜10）は、イエス様の方から声をかけられたお話です。ザアカイはエリコの町においでになったイエス様をひと目でも見たいと思っていたのですが、群集に遮られて見るのができませんでした。ザアカイは徴税人の頭だったため、群集からは罪人のみならずローマの手先と考えられて、誰も背が低い彼を配慮しようとはしなかったのです。そこでザアカイは先回りしていちじく桑の木に登ってイエス様のお姿を見ようとします。そんなザアカイにイエス様は木の上を見上げ、「急いで降りてきなさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」と声をかけられるのです。

ザアカイは本当に嬉しかったと思います。

またイエス様は対話を通して、声をかけてくださいます。「カナンの女の信仰」（マタイ15・21〜28）では、初めは何もお答えになりませんが、「小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです」と応える彼女との対話を通して、「あなたの願いどおりになるように」と声をかけてくださるのです。

◆私たちは誰に◆

私たちもイエス様に倣って「声をかけ」たいと思います。今年は、そして今年も、教会の礼拝においでになった方々、特に初めて礼拝においでになった方に「優しく一声、おかけ」できればと思います。

「おはようございます」の一声が、「ようこそいらつしゃいました」の一声が、自分も認識され、受け入れられていると感じていただけるなら、心の中で嬉しく感じていただけるなら、すてきですね。

ご一緒にそのような教会を目指していきたいと思えます。

(教区主教)

12月3日、吉田雅人主教による著書「礼拝と祈禱書（せみなりお青葉シリーズ3）」についての研修がオンラインで開かれました。研修は「礼拝と祈禱書」への質疑応答の形で進められました。

奉仕職養成グループ主催研修会 「奉仕のススメ」 part 4 開催

開催し、皆様の信仰生活の一助になれたらと願っています。また、一人でも多くの奉仕職、聖職に召される人が増し加えられることをお祈りしています。
(グループメンバー 有我 忠幸)

研修会を通して感じたのは、普段用いられている祈禱書や歴史、信仰について知らないことが多く、これらを知ること

今回の「奉仕のススメ」受講で式文の用い方の基にある式文作成の背景を聞いたことは、得ることが多く有意義でした。教団の牧師経験のある大先輩がみ言葉の礼拝に参加してくれた時に、聖公会の式文は完成度が高いと評価されていたことを思い出し納得しました。

私は日課を読み、説教を聞いて自分の日常を顧みたり、参考にする機会を与えてくれる教会で過ごす時間は、貴重であり大切にしたいと考えています。

私自身、当教会では若い方であり、見かけは健康なのですが、持病もあり立ったり座ったりが苦しい時期もありました。冠婚葬祭では諸先輩の前に正座できずに言い訳したほうがいいかいつも悩んでおります。小学生時には合唱隊に入隊し指導を受けていた経験もありますが、会社勤め時の不摂生な生活や最近は処方さ

参加者からの声

能代キリスト教会

ダビデ 大井 光次

れる強めの薬のせいで惨憺たる歌唱力になってしまいました。人手不足でみ言葉の礼拝を継続するために信徒奉事者を引き受けてからは聖書日課を事前に読み主日にあつた聖歌を考えたりするようになったことは進歩だと思いますが、式が滞ることなく進行することに重点を置いて手間をかけずに週報を作成することを考えていました。

司式に携わってみて、私もつと、立つこと、ひざまづくことに苦痛を感じている人や体調の悪い人、メガネを忘れて聖書を読めない人、喉の調子が悪く声の出ない人がいることに気付きました。

これらの問題の解決方法は、司祭さんの司式の進め方に配慮されておりましたので今は真似をしています。それに加えて主日に合った感動を与える説教を準備してくれる聖職者の皆様の努力の継続に改めて感謝します。

様々な配慮の中で教会を訪れる皆さんが実りある時間を過ごせる雰囲気を作るお手伝いが出来るように、協力を継続したいと思いました。

教役者研修会 報告

カルトについて学ぶ

司祭ステパノ 涌井 康福

昨年の12月6日、カルトについての学びをテーマに、奉仕職養成グループ共催で教役者研修会が行われた。この企画は11年前に行われる予定だったが、東日本大震災により急遽中止となり、カルト宗教の問題に社会的関心が高まっている今、教役者自身もつとこのことについて学びたいという思いから開催となった。研修はウェブで行われ、カルト宗教からの脱会を支援していられている竹迫之牧師（日本基督教団）にお話を伺った。

たくさんの方の気付きと新たな視点をいただいたので、紙面の都合上箇条書き的になることをお許しいただき、皆さんと共有したいと思う。

宗教はカルトに近い位置にあることを意識すること。決定的な違いは、宗教は私たちの生活、時代を祝福するもの。カルトは生活、時代に呪いを与えるもの（しなないと地獄

に落ちるなど）。マインドコントロールは、誰でもかかってしまう可能性がある。知らずのうちにまわり込んでいくもので、かかってしまうと抑圧下にあっても搾取されてもそれに気が付かない。むしろそれを良い状況として考えてしまう。その状態の人に「それは間違い。だめ」から入っても逆効果。説得ではなく対話を求めることが必要なことである。信じて疑わない教えから救い出してやるとか、忠誠を誓う教団から脱会するよう頭ごなしに説得してもかえって逆効果なのだ。対話を進めるうちに必ず相手は疑問や矛盾に気が付き始める。私たちはカルトをやめさせることはできないが、その人自らがやめることはできる。自らが気が付き、判断することが大切で必要なことなのである。私たちはそこに寄り添うという思いがとても大切なのだ。私たちもそういう方と出会うこともあるだろう。そこで唯一の神に信頼して対話することも大事な奉仕ではないだろうか。

シリーズ
わたしの道の光

「聖歌の持つ力」

福島聖ステパノ教会

マーガレット 本田 美佐子



空の鳥は 小さくても
お守りなさる 神さま
日曜学校で覚え、よく口ず
さんでいた聖歌です。

私は10歳の時、母と姉と一
緒に斉藤政信司祭様より洗礼
を受けました。事前の学びで
教えていただいた「主の祈り」
を牧師館の帰り道で何度も復
唱したことを覚えています。

その頃の私は、内向的で
思ったことはつきり口に出
せない子どもでしたが、政信
司祭様、むつ夫人のそばで少
しずつ自己表現ができるよう
になったと思います。

15歳になり中村信蔵主教様
より按手を受けることができ、
頭に手を置いて頂いた時は喜

びで胸がいっぱいになりまし
た。それから3年後に主教様
は退任なされましたが、その
年の復活祭は当教会でご一緒
に祝ってくださいました。私
の文語の祈祷書にはその時書
いて頂いた「絶えずお祈りな
さい 全ての事に感謝なさ
い」との聖句があります。今
も私のそばに置いてあります。

私の母は晩年、長く病床に
ありました。つらそうな表情
を見せることが多くなり、私
は祈るばかりでした。そんな
中、嬉しい変化を見たことが
ありました。病床訪問で中山
茂司祭様が来られた時のこと、
母の好きな聖歌を聴かせよう
と「静けき祈りのときはいと
楽し」を司祭様と私で歌い終
わった時、母の強張っていた
顔がスーッと柔らぎ、満足気
に大きく息をひとつ吐いたの
です。聖歌の力、優しさを感じ
た瞬間でした。母はその後
82歳で天に召され、葬送式に
はそれまで司牧されていた司
祭様方が、葬送の祈りを捧げ
てくださいました。この世の
役目を終えた母を「喜びを
もって」天国に送ることがで

きました。

その後、私は仕事や子育て
も終盤と思いながら過ごして
いた頃、東日本大震災とそれ
による原発事故を体験しまし
た。私の住む地区にも放射線
によるホットスポットができ、
家の庭や、休耕田にしていた
場所にも影響がありました。
除染作業には年月がかかりま
したが、草一本生えていない
土地を眺めながら考えました。
今、母が生きていて元気な
ら、ここに菜園があつたなら
どんなに喜ぶことか。すぐに
菜園を作ることに決めました。
忙しい夫には最初だけ耕運機
をかけてもらい、私の一人農
業が始まったのは5年前のこ
とでした。農薬を使わない自
然菜園は、今では毎年豊かな
実りを与えてくれています。
朝の畑には空の鳥が地表に落
ちた小さな実や虫をついばみ
に来ます。夕空の雲間に、母
の笑顔が見えるようです。母
が教会の戸を叩いて私たち姉
妹も教会生活の中で多くを学
びながら、信徒の皆さんにと
もに信仰生活を送っています。

礼拝堂探検隊

礼拝堂にあるいろいろなもの、
その意味を調べてみました。

(第25回 聖櫃/タバナクル)

前回、聖
所灯につい
てお話しし
ました時に
「聖櫃」と
いう言葉を
用いました。
これは「せ
いひつ」と読み、英語ではタ
バナクルと言います。聖別さ
れたパン（聖体）を入れた容
器（ボックスやシボリウ）を安
置するための箱状の器です。
聖別されたワインや聖油を入
れることもあります。

タバナクルという言葉はラ
テン語の tabernaculum (テ
ン／幕屋) に由来し、礼拝堂
内の様々な天蓋付きの構造物
の呼び名でしたが、特に祭壇
の中央に置かれる箱に適用さ
れるようになり、一六世紀以
降、保存聖体 (reserved sacra
ment) を安置する箱のことを
指すようになりました。



(聖櫃・タバナクル/仙台基督教会)

その慣習は聖書的でないとし
て認めない聖職がいました。
しかし一九世紀半ばから始ま
った「オックスフォード運動」
以降、このような聖体保存は
一般的になったようです。

日本聖公会では『一九五九
年祈祷書』で、病者にあらか
じめ「聖別された聖品」を奉
持して授けることが認められ
ました。そして二〇一一年の
「み言葉の礼拝と陪餐」式文
の認可に伴い、司祭不在の主
日礼拝で保存聖体を用いて礼
拝することが認められました。
タバナクルは一般的には木
で作られますが、金属製でも
かまわず、その場合にはポプ
ラや杉で内張をするようです。
また設置場所も弘前のように
主祭壇の上か、仙台のように
至聖所内の壁に取り付けるこ
ともあります。(教区主教)



(聖櫃・タバナクル/弘前昇天教会)

英国
聖公会
では保
存聖体
を用い
て病床
聖餐を
行う聖
職と、



若松諸聖徒教会

東日本大震災被災者
支援プロジェクト報告

最終日クリスマスソングを歌い、卒業記念としてクリスマス飾りと正月飾りを作り、サントさんからの素敵なプレゼントもありました。最後に皆で肩を組み「もういくつ寝るとお正月」を合唱。片付けを終えて玄関で皆さん全員が私たちを見送ってくれました。

『震災証言集』にほとんどの方々が寄稿してくださったことは忘れられません。終了し

1964年2月25日逝去